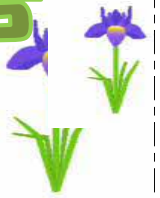


浜田林業部トピックス(5月号)



TOPICS 1

カメムシから球果を守る！ 袋かけ作業を実施しま

島根県には山に植えられるスギやヒノキなどの種子を採取するための採種園が金城、瑞穂及び宍道の3カ所にあり、県が管理を行っています。品質（発芽率）の高い種子を採取することは、優良な苗木生産へつながります。そのため、島根の循環型林業を確立していくうえで、種子生産は重要な役割を担っています。

種子生産は

「害虫（カメムシ）防除→球果採取→乾燥・脱粒→発芽試験→種子配布」の流れで毎年行われています。

今回は種子生産の動き出しとなる害虫防除を行いました。皆さんもよく知るカメムシは球果を食料としており、これは種子の品質低下の大きな原因となることから、種子生産においてカメムシ対策は大切な作業となっています。

害虫防除の方法は2段階あり、今回はカメムシの侵入を防止する「袋かけ」を行いました。この「袋かけ」はカメムシが孵化を始める前に行うことが重要となっており、今年は5月20日（水）に金城採種園で実施しました。この作業を行うことによって種子の発芽率は、未処理のものと比較して数倍高くなります。今後は、害虫防除の1つである薬剤散布を夏頃に行い、今年の秋に種子を収穫し、年明け以降苗木生産者に種子を配布する予定となっています。



ヒノキの球果



袋かけ作業中



袋かけ後

※循環型林業・・・木を「伐って、使って、植えて、育てる」のサイクルによって環境保全と持続可能な地域発展の実現を目指します